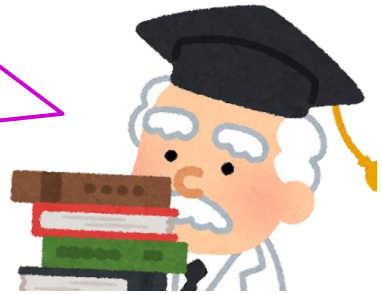
知的障害のある児童生徒の言語能力の向上を目指して

なぜ、言語の定型発達を理解すべきなのか

知的障害があるとしたら、言語能力は
定型発達のとおりにはならないのでは？

定型と異なるペースで発達していくが、
発達の段階性は概ね共通する。



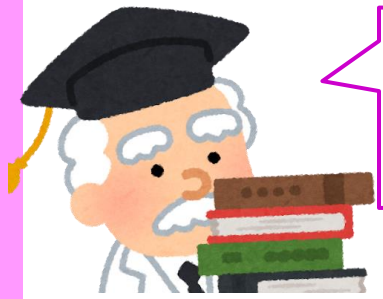
定型発達を踏まえた言語の指導の有効性

言語は、他者との関わりの中で
自然に**獲得**されるものである。

- 「言語の**獲得**」とは、単語の発音や文法などの言語の基本的な要素を無意識に身に付けること。
- 「言語の**習得**」とは、単語の意味や文法などを意図的かつ計画的な学習の中で身に付けること。

言語の定型発達：言語獲得のプロセス

👉出生直後から始まり、
喃語→単語→二語文→多語文へと段階的に発達する。



この過程では、周囲の言葉を聞き、模倣し、
意味を結び付けることで言葉を習得する。

喃語

▸生後数ヶ月～　→声帯の発達に伴い、様々な音を出す。

一語文

▸１歳前後　→具体的な物や人を指して単語を口にする。

二語文

▸１歳半頃～　→２つの単語を組み合わせて話せるようになる。

三語文

▸２歳頃～　→3つ以上の単語を組み合わせて話せるようになる。

複文

▸３歳頃～　→物語、より複雑な文章を理解して話せるようになる。

コミュニケーション

▸４歳頃～　→相手に合わせた言葉遣いや状況に応じた言葉の使い分けができるようになる。

▸～６歳頃　→語彙が増え、より複雑な文章を理解し、話せるようになる。
※読み書きの準備段階

言語の習得を目指して

指導の基本的な考え方

①各教科で習得を目指す力は、言葉だけではない。

②言葉の学習として切り離すのではなく、
活動の流れに沿い、言葉を用いる場面を
意図的につくることが重要である。

③活動の中で児童生徒の自然なコミュニケーションを
引き出し、聞く力 話す力 読む力 書く力という
4つの基礎となる力をバランス良く高めていく。

「意図的な仕掛け」を「自然な形で」への挑戦